

藤原与一先生著

『幼児の言語表現能力の発達』

——「わが子のことば」をみつめよう——

本書は、藤原先生がお子さん方を調査対象として、「幼児の言語表現能力の発達、すなわち知力、人間力の発達展開を見ることを主眼」として書かれたものです。

生後一カ月から小学校入学まで、幼なじの、めざましい成長を上げていく姿が、生き生きと描かれ、読む者を感動させます。

従来の幼児語研究の主流は、概括的、あるいは人間不在の分析的なものが多かったように思われます。先生は、すでにご発表の数多くの高著に明らかなように、文表現の生きて働く、そのまますらえていらつしやいます。

本編では、まず実例分析の態度・方法として次の五項目があげてあります。

- 実例である文表現の、表現法（内容に応じる表現形式）を分析し、表現能力（思考力・精神力）の発展を見ていく。
- 幼ない子たちは、どんなに順次、表現法・文表現を見ていく。
- 文表現には語が用いられる。文表現での、その、語の運用を見ていく。
- 幼児たちは、語を文表現のために創作する。その創作を見ていく。
- 幼児たちは語彙をどのように拡充していつているか。これを見ていく。

この五項をめやすに、以下、十九章に分けて、言語表現能力の発達状況が記述されています。

第一章	ことばの生活のめばえ ——「言語表現」始滅期—— △生後七、八カ月▽
第二章	呼びかけの発生 ——（対話の発生）—— △生後一年三—五カ月▽ 否定と「はい。」 △生後一年三—五カ月▽
第三章	助詞使用のはじめ △生後一年四カ月▽
第四章	対話力の上進 △生後一年五、六カ月での言語力
第五章	一年七カ月での表現力 ——表現形式の展開—— ちえづく
第六章	一年八カ月—— ますますちえづく
第七章	一年九カ月—— 一年十カ月での生活
第八章	一年十一カ月での生活 二歳になるかどうか？
第九章	二歳一カ月のこと
第十章	二歳二カ月のこと
第十一章	二歳三カ月のこと
第十二章	二歳四カ月のこと
第十三章	二歳五カ月のこと
第十四章	二歳六カ月のこと
第十五章	二歳七カ月のこと
第十六章	二歳八カ月のこと
第十七章	二歳九カ月のこと
第十八章	二歳十カ月のこと

第十九章 各児の成長 ——二歳六カ月——

全ページに、先生の慈愛のまなこが感じられ、幼児の、「心とともにそのことばを成長させ、発達させていく」さまが、読む者の心に強く写ってきます。

幼児の言語表現能力の発達は、個々の子に独自のものであり、それぞれに発展可能性を持っています。おとなは、その伸びる芽をことばで育てていくのです。先生は、次のようにおさしになります。

ことばは、人間のいのちのあらわれです。「人間の心」です。相手の心を育てるため。げっと、相手のことばの中へはいつていきます。相手のひとことばひとことばを味わい、ひとことばひとことばに驚いて、相手の心のはたらきを、よく理解するようにしましょう。（中略）

根本の根本にだいいじなのは、相手への「思いやり」の情愛だと思ひます。相手への「思いやり」の心を持つとするとするのが、まずだいいじなですね。

含蓄あるおことばだと思ひます。幼児の生育を基礎的に指向するのは、周囲のおとな、わけても一番身近かに生きる母おや。私どもは自明のことと知りながらも、平素の忙しさにまぎれて、幼児に對しつゝい怠惰になります。自らをいまいましなければなりません。本書は、世の母おや、そして、人間らしく成長させようと願うおとな一般にとつて、幼なじのことばを深くみつめていく、一つの指針となるものです。

（A5判・三〇六ページ・三八〇〇円）  
文化評論出版・昭和52年2月20日刊行  
（生塩睦子）